

平成30年度「特別支援教育基本セミナー」(胆振会場)

北海道教育庁胆振教育局義務教育指導班

胆振教育局では、平成30年5月26日(土)に、むろらん広域センタービルを会場として、平成30年度「特別支援教育基本セミナー」を開催しました。

管内の小・中学校、高等学校及び特別支援学校教員の計15名が参加し、講義や演習を通して、障がい特性に応じた支援方法や特別の教育課程の編成について理解を深めました。

講義1「障がい特性の理解とかわり方」

北海道立特別支援教育センター知的障がい教育室研究員 松原 ひかり

【講義内容】

- 特別支援教育の理念
- 障がい特性に応じた支援の工夫
- 発達障がいのある児童生徒の理解の方法

【まとめ】

児童生徒のよさに気付くことや、分かる・できる状況づくりから意欲的な学習を促し、自己肯定感を高めていくことが大切であることを確認した。



講義2「特別の教育課程の基本的な考え方」

北海道教育庁胆振教育局教育支援課義務教育指導班指導主事 坂内 仁

【講義内容】

- 特別支援学級及び通級指導教室における特別の教育課程
- 各教科等を合わせた指導
- 自立活動
- 交流及び共同学習

【まとめ】

教育課程編成の基本を理解し、児童生徒の実態把握に基づき、目標を達成するために必要な内容や方法を、教育課程に位置付けることが大切であることを確認した。



講義3「授業づくりの実際」

室蘭市立知利別小学校教諭 山本 優子
北海道伊達高等養護学校教諭 場崎 史郎

【講義内容(山本教諭)】

- 特別支援学級における学級経営の工夫
- 視覚支援の工夫
- 自立活動の充実
- 個別の指導計画を活用した評価の工夫

【まとめ】

よりよい授業づくりのために、自分を高める研修、新たな発想の創造、保護者や他の教員との連携、児童生徒や保護者、他の教員からの信頼が大切であることを確認した。



【講義内容(場崎教諭)】

- 障がいの特性に配慮した授業展開の工夫(ICTの活用)
- 児童生徒の授業態度や理解度を基に、授業改善につなげる工夫

【まとめ】

適切な指導や支援を行うためには、児童生徒の「分からなさ」を理解することが第一歩であることを確認した。

説明・演習「個別の指導計画を活用した指導や支援の充実」

北海道立特別支援教育センター知的障がい教育室研究員 松原 ひかり

【演習内容】

- 参加者からの事例提供に基づく個別の指導計画の作成
 - ・ 長期目標及び短期目標の検討
 - ・ 指導や支援の内容、方法の検討

【まとめ】

個別の指導計画を活用し、児童生徒を理解し、自分の指導を振り返ることが大切であることを確認した。



【意見・感想】

- 特別支援教育の基本的な内容について学ぶことができた。
- 子どもの成長のために、様々な教職員が共通理解を図りながら関わることの大切さを実感することができた。
- 学級経営で悩んでいたが、演習の際にこれからの実践に生かすことができる意見をたくさん聞くことができ、大変参考になった。